様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 6 月 8 日現在

機関番号：37402
研究種目：基盤研究　(C)
研究期間：　2008～2010
課題番号：20520402
研究課題名（和文）グロットグラムによる中国江蘇省南部方言の言語地理学的、社会言語学的研究
研究課題名（英文）　A geo-linguistic and socio-linguistic study on dialects in southern part of Jiansu, China by glottogram
研究代表者
石 汝杰　(SHI RUJIE)
熊本学園大学・外国語学部・教授
研究者番号：50278149

研究成果の概要（和文）：
本研究は、言語地理学、社会言語学的方法で、①都市化の影響が最も顕著である江蘇省南部の蘇州、無錫、常熟一帯を対象地域とし、②日本方言学が開発したグロットグラム(Glottogram)の手法を適用することによって、変化を促す社会的要因を明らかにすることとする。本研究では三点を結ぶ三つの幹線道路の沿道に位置する数十の町と村を対象とする。各地点の方言話者 60 人を選び、世代間及び男女間の言語差を記録する。調査結果を整理し、項目ごとに方言地図とグロットグラムを作成する。同時に、三地方言の間、諸言語要素の変化の過程についても、解明した。

研究成果の概要（英文）：
Applying geo-linguistic and socio-linguistic methods, we investigated dialects in a triangle region among three cities Suzhou, Wuxi and Changshu, Jiansu province, China. We have got numerous data from 60 informants, and analyzed them with glottogram developed by Japanese linguists and explicated the process of the dialects transition.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：言語学、中国語学
キーワード：中国語方言、呉方言、言語地理学、社会言語学、グロットグラム

１．研究開始当初の背景

中国における方言研究は、従来、大都市や「県城」(県庁所在地)のような地域の中心地を対象とするのが常道であり、周辺農村地域に関する調査は手薄であった。村々の方言を調査し、言語形式を地図上に表現する研究としては、かつて中国科学院語言研究所『昌黎方言志』(社会科学出版社，1960）があった。また葉祥苓『蘇州方言地図集』(龍渓書舎，1981)は、263 地点を調査した貴重な記録であ

る。しかしながら『昌黎方言志』の地図は“方言区画”を目的としたものであり、また『蘇州方言地図集』は言語データを地図上にプロットしただけに終わっており、語形の分布に関する言語地理学的な解釈は提示されていない。近年、県単位の方言を対象とした詳細な調査とその報告も次第に増えてきており、地理的分布の解釈を試みる研究もあるが、従来の区画的な発想の上に欧米から流入した変異理論、語彙拡散理論等が重なり、錯綜して、混乱状態にあるかにみえる。

一方、急速な経済発展に伴う人口の流動化によって、特に東部沿岸部においては、大都市はもとより「県城」方言もすでに伝統方言の調査対象ではなくなりつつある。さらに「県城」方言の変質は、下部行政単位である「郷鎮」の中心地にまで影響を与えており、最下部単位である「村」の方言に残された伝統的な農村方言もすでに“危機に瀕した”存在になっている。このことから当面する緊急課題として次の二つが認識される。

(1) 村々の方言の調査、記録とその言語地理学的研究。
(2) 大都市又は「県城」周辺地域の方言の実態とその社会言語学的研究。

本研究は中国語方言の調査の実践経験を積んできた石と岩田の接点において着想されたものであるが、これまでの言語地理学的アプローチに加えて、①都市化の影響が最も顕著である江蘇省南部の蘇州、無錫、常熟一帯を対象地域とし、②日本方言学が開発したグロットグラム(Glottogram)の手法を適用することによって、変化を促す社会的要因を明らかにすることとした。

２．研究の目的

中国においては広大な農村部になお伝統的な方言が残されているが、言語地理学的手法の適応は遅れている。その一方で、大都市周辺の方言は、急速な都市化の影響を蒙りつつあり、社会言語学の研究対象としても重要になっている。本研究は、中国江蘇省南部の蘇州、無錫、常熟一帯の方言(北部呉語)を対象とし、三都市を結ぶ線上に位置する村又は町を調査する。各地点で方言話者を選び、世代間及び男女間の言語差を記録し、その結果を方言地図及びグロットグラムに反映させる。日本で生まれたこの手法を中国語方言に適用することによって、言語変化に関する様々な知見が得られるはずである。

３．研究の方法

対象地域は江蘇省南部の蘇州、無錫、常熟一帯(北部呉語地域)である。蘇州、無錫、常熟は、いずれも当該地域における中核的都市であり、トライアングルをなす。相互の距離はほぼ均等である。

蘇州、無錫、常熟は、それぞれ都市としての歴史と現在の役割を異にするが、言語的にはおそらく蘇州、無錫は拮抗し、常熟はやや劣勢である。しかし行政区画が長期にわたって固定されてきたため、この三つの都市は周辺農村部に対するそれぞれの影響を保持してきた。三つの影響力が交差・錯綜する地域において言語学的に価値のある現象が発見されるはずである。

本研究では三点を結ぶ三つの幹線道路の沿道に位置する数十の町と村を対象とする。

まず、一次調査のために約 500 項目より成る予備調査票を作成し、そして、本調査票を

作成した。調査票は、代表者・石汝杰が原案を作成し、分担者・岩田礼と協議の上、確定した。

２００８年の冬から、一次調査が終わってから、約二年ほどの時間をかけて、本調査表を使って、各地点で、異なる年齢層から方言話者を選び、世代間及び男女間の言語差を記録する。調査結果を整理し、項目ごとに方言地図とグロットグラムを作成する。

４．研究成果

本研究は日本語方言の研究において大きな成果を上げてきたグロットグラムの手法を中国語方言に適用することによって、方言の地理的変異と年齢的変異の相関を明らかにしながら、言語変化を促す社会的諸要因を解明することを目的としている。

過去２年半において、方言調査、データ整理、方言地図作成、グロットグラム作成を進めてきたが、代表者・石汝杰は現地の大学の先生等の協力を得て、交通線に沿って、蘇州、無錫、常熟３地の郊外を中心として、３５地点、６０人の３３時間以上の録音を取って、大量の記録をした。内容として、発音と語彙を約２００項目ある。これらの調査資料については、現在、整理、分析を進めている。

分担者・岩田礼は、石汝杰が現地調査で収集した言語データ情報をデータベース化する作業を進めた。データ入力ツールは岩田等が構築してきたPHDシステムを一部改良した上で利用し、その出力を方言地図及びグロットグラム作成のために用いた。地図は福嶋秩子氏作成の SEAL を利用し、グロットグラムは独自に作成したツールを用いた。

本研究の成果は、2011 年 11 月に北京語言大学で開催された中国語言語地理学国際会議などで発表したが、現在、学術誌投稿論文の準備を進めている。グロットグラムの手法を中国語方言に適用する試みは、中国語大陸ではおそらく初めてのことであり、近い将来、調査地域の方言地図・グロットグラム集を公刊する予定である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

①石汝杰：語言地理学前途無量—首届中国地理語言学国際学術研討会総結発言,『語言教学与研究』2011 年第 1 期、8-10 页

②石汝杰、劉艶：山西中部地区舌尖声母的分合及分布研究,『海外事情研究』第 38 卷第 2 号、2011 年 3 月、27-40

③石汝杰：浅論方言和普通話的関係,『漢語与漢語教学研究』創刊号、2010 年 7 月、100-109（東方書店）

④岩田礼：従“瘧疾”的方言地図看漢語方言的歴史層次、『南大語言学』第三编, 2008 年8月、165-182

〔学会発表〕（計 ４件）

① 石汝杰：蘇南呉語的語言地理学研究、首届中国地理語言学暨中日方言保存利用国際学術研討会、２０１０年１１月２２日、北京語言大学

② 岩田礼：《漢語方言解釈地図》簡介、首届中国地理語言学暨中日方言保存利用国際学

術研討会、２０１０年１１月２２日、北京語言大学

③ 石汝杰：従蘇州方言看語音和語法結構的関係、漢語方言国際学術研討会暨全国漢語方言学会第 15 届年会、2009 年 12 月 1 日、澳門大学

④ 石汝杰：明清時代呉語語素初探、歴時演變與語言接觸：中國東南方言國際研討會、2008 年 12 月 16 日、香港中文大學

〔図書〕（計 4　件）

① 石汝杰：『呉語文献資料研究』、好文出版, 2009, 370pp

② 岩田礼：『漢語方言解釈地図』、白帝社、2009, 341pp

③ 石汝杰：『漢語方言地図集』（共著）、商務印書館、2008

④ 石汝杰、王稼句：『蘇州文化概論――呉文化在蘇州的伝承和発展』（第 19 章蘇州的方言文化）, 江蘇教育出版社, 2008 年 12 月, 335-361

〔産業財産権〕
○出願状況（計　0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者
石 汝杰(SHI RUJIE)
熊本学園大学･外国語学部･教授
研究者番号:50278149

(2)研究分担者
岩田 礼 (IWATA RAY)
金沢大学･歴史言語文化学系･教授
研究者番号:10142358

(3)連携研究者
(　)

研究者番号：

(4)主な協力者
蘇州大学：汪平、曹曉燕
江南大学（無錫）：黄明明、胡智丹
北京語言大学：黄曉東
蘇州高新区地方志弁公室：黄孟弟
熊本学園大学：劉艶（博士後期課程院生）